

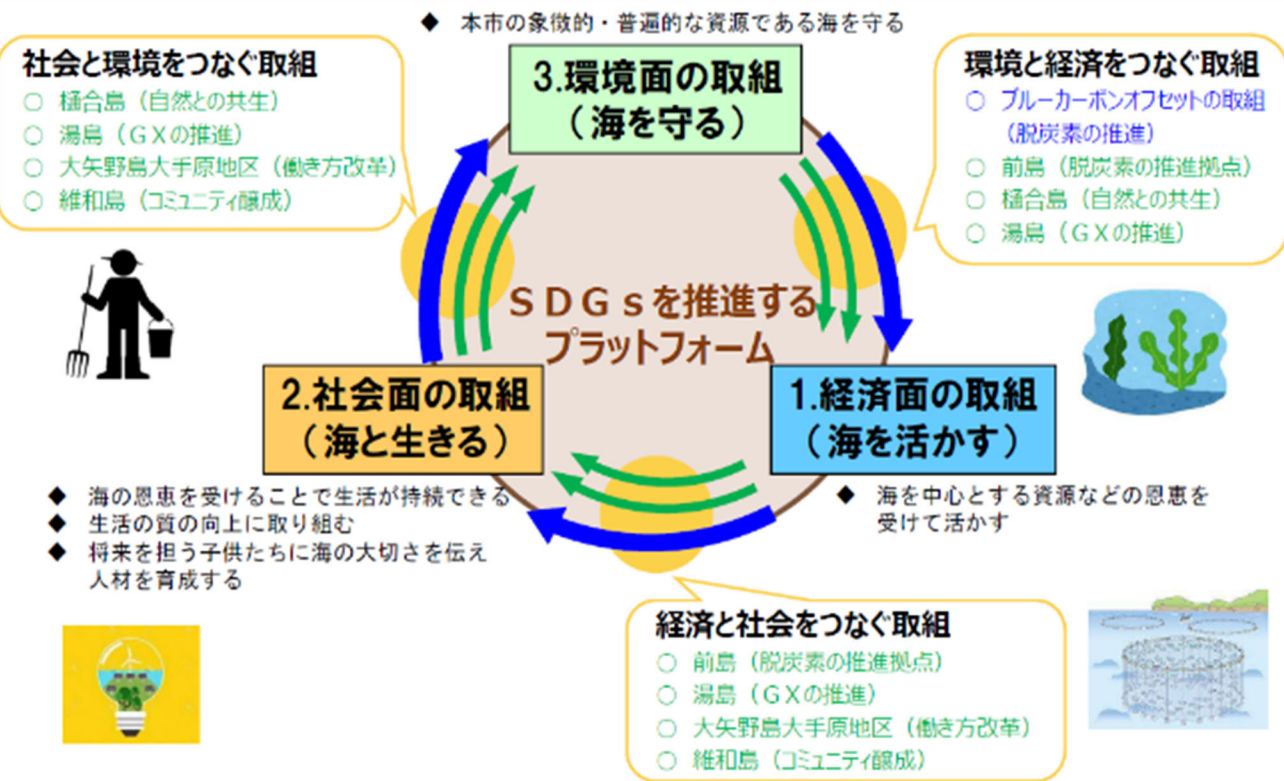
2.3 市民向けワークショップの様子。カードゲームを活用し、幅広い世代でSDGsを学ぶ。



SDGs 推進に向けた取り組み

島々を抱く穏やかな海で自然の恵みを活かした
サステナブルシティ
～訪りたい、応援したい、戻りたい～

■ 海、島々、五橋の好循環の仕組み



4 上天草市内のアマモ場。

地域特性と課題

10 上天草市

上天草市は、熊本県の西部、有明海と八代海が接する天草地域の玄関口に位置し、天草地域に浮かぶ大矢野島、上島など大小約68の島々から構成されている。

天草五橋が1966年に完成したことによって九州本土と陸続きとなったが、この橋の開通によって、観光業をはじめとする各種産業が発展し、島々に住む市民の暮らしを支えることとなった。

その後、2000年に天草空港が開港し、2011年には九州新幹線鹿児島ルートが全線開業、2002年及び2018年には、熊本天草幹線道路の一部供用開始し、熊本都市圏からのアクセスも向上しており、観光客が増加傾向にある。

人口動態を国勢調査（2005年時点と2015年時点）と比較すると、老年人口（65歳以上）が30.5%から37.6%と県内市町村の老年人口平均28.8%に対して8.8ポイント上回っており、少子高齢化が進んでいる。

また、2040年には上天草市の総人口は、1万

7188人になると推測されている。

上天草市の基幹産業は、観光業、内航海運業及び農林水産業であり、第2次総合計画においても重点戦略として観光業と農林水産業の振興を掲げている。

特に観光業では、市のほぼ全体が雲仙天草国立公園に含まれ、松島の風景や龍ヶ岳・白嶽をはじめとす九州自然歩道（観海アルプス）からの眺望などを活かした施設を整備するなど特色のある観光地づくりを進めている。

このような特徴を持つ上天草市には、主に3つの課題がある。

① 高齢化の進行
2040年には、総人口のうち、65歳以上が半数になると見込まれている。

② 雇用環境の整備
生産年齢の人口減少を抑制するため、基幹産業における魅力的な雇用環境の整備が望まれている。

③ 人口減少の抑制
コロナ禍を転機と捉え、移住促進と制度の拡充を図る必要がある。

国道266号上に点在する島々を結ぶ天草五橋。

人口（令和2年国勢調査）：2万4563人
面積（参考）：126.94平方キロメートル



1 ブルーカーボン現地補足調査の様子。

interview



企画政策課地方創生係 参事
泉田 利博さん

企画政策課地方創生係 主事
飯野 亮さん

企画政策課地方創生係 係長
鬼塚 正二さん



上天草市の未来都市に向けての取り組み

上天草市の特徴

上天草市は、大小68の島々が構成された東西15キロメートル、南北28キロメートルほどの地域で、市のほぼ全域が雲仙天草国立公園に含まれ、自然に恵まれています。約60年前に、天草五橋で九州本土と陸続きになったことで、観光業を始め各種産業が発展した一方で、人口は、1950年のピーク時には5万5千人だったのに対し、2020年には2万4千人となり、急激に減少しています。

主な産業は、観光業と海運業と農林水産業です。海運業については、熊本県内の約6割の事業者が本市に立地しています。これは全国でも有数の事業者数で、上天草市の海運業が日本の産業と人々の生活を支える重要な役割を担っていると言っても過言ではありません。海産物では、車エビの漁獲量が過去に全国で第3位となったこともあり

ます。車エビ養殖の発祥は本市と言われ、昔から盛んに行われています。農産物では柑橘類や花の栽培が盛んです。また、本市は、島原・天草一揆において一揆軍の最高指導者であった天草四郎の生誕の地であると伝えられており、「天草四郎ミュージアム」を整備しているほか、シンボルキャラクターの「上天草四郎くん」を各種広報媒体で活用しています。また、本市は熊本都市圏からのアクセスが良く、優良な漁場があるため、多くの釣り客が訪れています。そのため、釣りを地域資源ととらえ、釣りを軸とした「ブルーツーリズム」を推進するべく様々な取り組みを行っています。地域の事業者が連携して、遊漁船での釣り、釣った魚の食事、宿泊などを一体で体験できるプログラムを開発していることは、その一例です。このようなプログラムの造成をきっかけに、釣り

の地域経済波及効果をさらに向上させ、持続可能な地域を目指していきたいと考えています。他方、近年、温暖化などの影響で藻場が減少し、漁獲量にも影響を与えています。市では、藻場の造成活動などブルーカーボンを創出する団体を支援するなど、海を守る活動を行っています。今後は、小中学生や地域の方がこの活動に参加できるような機会を創出して、海を守りながら海と触れ合う機会を作っていく予定です。

ステークホルダーとの連携

SDGsの達成には、行政だけではなく、市民や企業と一体になって取り組んでいく必要があります。市民や企業に向け、SDGsの普及啓発を目的とした勉強会を計画し、参加者の募集を行いました。SDGsという言葉に馴染みがないためか、当初、集客には苦労しました。地域の婦人会など

関係者に丁寧に声掛けをしたところ、多くの人にご参加いただきましたが、改めて集客の難しさを感じました。ブルーカーボンについては、NTTグループや、(株)ウミトロン、ENEOS(株)などの民間企業と連携し、実証実験を行っています。今後、藻場を増やす活動を行うことでブルーカーボンクレジットを創出し、環境負荷軽減を図りたいと考えています。海の状態を把握することは想像以上に大変で、多大なコストが必要となるため、前述の民間企業との連携を大切にしています。

今後は、この活動に地域住民や小中学校と協力しながら進めていける体制を整える予定です。市民への普及啓発の面では、2022年度にパンフレットを作成しました。文章のみでは見てもえないと考え、地元の漫画家志望の若手の方に協力していただきました。漫画の中では、ゴミ拾いの

ことなど、昔から市民の皆さんが取り組んできたことがSDGsにつながっているというのを理解していただき、SDGsを身近に感じてほしいです。取り組みにおける苦労

取り組みにおける苦労

SDGsという言葉自体を理解してもらうことには苦労しましたが、2023年1月に開催した市民向けの研修は好評でした。カードゲームを使いながら学ぶことができ、参加された高齢者や子ども達も自分事として楽しんでいただけました。現在、新たなトレーディングカードゲームの制作の話も進んでいます。東京の(株)ギルドヒーローズの協力のもと開催された「SDGs特別講座」をきっかけに上天草高校の生徒がアイデアを出し、2体のSDGsヒーローが新たに誕生しました。今後はアニメ、漫画、ゲームなどのツールを使いながら、たくさんの方にSDGsを理解していただきたいと考えています。

今後は、市内の1つの地域をモデル地区にして、集中的に事業に取り組む予定です。例えば、地域の住民に向けた環境研修や生ごみコンポストを使った体験などを考えています。まずは、1つの成功事例を作ることでの地域に波及し、結果として、2030年には市全体にSDGsの意識が広がれば良いと思っています。

今後の展開

ブルーカーボンについては、地域住民や小学生による植え付け体験を予定しています。ブルーカーボンクレジットの創出をするためには、藻場を増やすだけではなく、吸収されるCO₂がどれくらい増えるかを正確にモニタリングする必要がありますので、より安く、簡単にできる手法の検証も並行して行っていきます。

このように、市民とともに海を守り海を活かして海と生きる取り組みを行うことで、SDGsの達成に貢献していきたいです。

- 2 穏やかな海では、海水浴、釣り、シーカヤック、クルージング等のアクティビティが楽しめる。
- 3 上天草には、トレッキングコースが豊富。次郎丸嶽(397m)は、アスレチックのような山歩きを楽しめる。
- 4 天草四郎とキリシタンの歴史を展示する歴史テーマ館「天草四郎ミュージアム」。
- 1 国指定の名勝に指定されている高舞登山は、標高117mにある展望所から雲仙や天草松島の多島海景観を見渡せる。